



フィンランド独立100周年記念
100th Anniversary of Finland's Independence

フィンランド

Finnish Design 2017

デザイン展



名称 フィンランド独立 100 周年記念 「フィンランド・デザイン展」

主催 日本経済新聞社、福岡市博物館（福岡展）、愛知県美術館（愛知展）、
福井市美術館（福井展）、府中市美術館（東京展）、宮城県美術館（宮城展）ほか

後援 フィンランド大使館、フィンランドセンター

特別協力 フィンランド政府観光局、日本フィンランド協会、アルテック、イッタラ（フィスカース・グループ）、
スキャンデックス、タトル・モリ エイジェンシー、マリメッコ社、ルック

協力 フィンエアー、フィンエアーカーゴ

協賛 大伸社

企画協力 キュレイターズ

開催概要

この度、フィンランド独立100周年を記念して、多くの人々に愛され続けているフィンランド・デザインを紹介する展覧会を開催いたします。

「森と湖の国」と言われる自然豊かなフィンランドですが、夏は白夜、冬は極寒という、人々が生活するには大変厳しい環境下にあります。それでも、フィンランドに住む人たちは、昔から自然と共に生き、その生活の中から楽しみを見出しつつ日々の暮らしを送って来ました。

フィンランドの巨匠アルヴァ・アアルト(1898-1976年)やカイ・フランク(1911-1989年)をはじめとする多くのデザイナーたちも、やはり創造の源には「自然と人間との調和」に重きを置いており、日常で愛され永く使われ続けるような、シンプルかつ明るいデザイン作品を生み出してきました。それらは時代が変わっても廃れることなく、技術の進歩や新しい動向に合わせてしなやかにその姿を変えて行き、現在でも未来へとつながる新しいデザインが新世代のデザイナーたちによって生み出され続けているのです。

本展では、独立以前の装飾芸術から現在までの100年に及ぶフィンランド・デザインを6つのセクションに分け、デザイナーを支え育ててきた企業や各時代の主要なデザイナーに焦点を当てて紹介いたします。



画像提供：フィンランド政府観光局

みどころ

1. フィンランド・デザインの全貌をみせる

フィンランド・デザインは、常に身近にある「自然」やその環境に大きく影響を受けてきました。例えば、森の木々や湖の波紋などから単純化された形を生み出したり、冬の暗く寒い時期が長いことから敢えて明るい色を多用したりするなどの特色があります。日々の暮らしに密着したデザインは、単純でも飽きの来ないものとして、いつまでも大切に使われることを前提に考えられています。

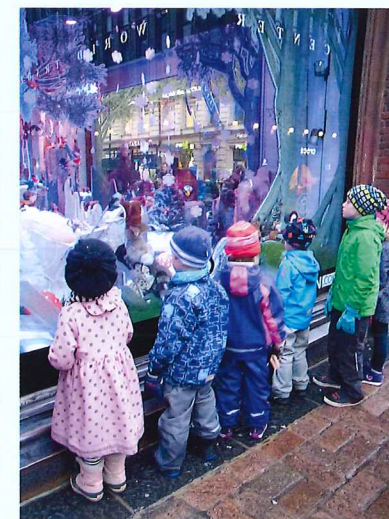
今回、19世紀末から現在まで、実際にフィンランドの日常生活で使われている食器や家具、服飾などの他、グラフィックや陶製レリーフ、ガラスのオブジェなども紹介し、フィンランド・デザインの全貌をおみせします。

2. 企業ブランドや各時代のデザイナーに拘った展示

フィンランド・デザインにかかせない『ARABIA』(アラビア)、『iittala』(イッタラ)や『Artek』(アルテック)、『Marimekko』(マリメッコ)などのブランドを確立した企業が担ってきた役割を紹介し、また、1930年前後に生まれ、いまでも現役で活躍する異才たちエリック・ブルーン、ヴォッコ・エスコリン-ヌルメスニエミ、エーロ・アールニオをはじめ、1970年代生まれのハッリ・コスキネン、ヘイニ・リータフタまで、各時代における優れたフィンランド・デザイナーたちに焦点をあて、彼らの様々な素材によって表現された特徴的な作品とその人物像に拘った展示をします。

3. 実際に体験できる作品展示

フィンランド・デザインを代表する、アルヴァ・アアルトやエーロ・アールニオなどによる名作椅子に、実際に座って体験できるスペースを用意します。フィンランド・デザインのぬくもり、心地良さ、遊び心を是非体験してみてください。



画像提供：フィンランド政府観光局

第1章 フィンランド独立以前の装飾芸術

本章では、装飾芸術品や建築(映像)によってフィンランド・デザインが生まれるまでを紹介しします。独立以前の生活スタイルを感じてもらうことも含め、19世紀末から20世紀初頭にかけて制作された陶器やガラス、家具、テキスタイルなどの装飾芸術品の他、当時の室内スケッチを展示するとともに、フィンランドを代表する建築家エリエル・サーリネンが設計した1900年のパリ万博フィンランド展示館などを紹介します。

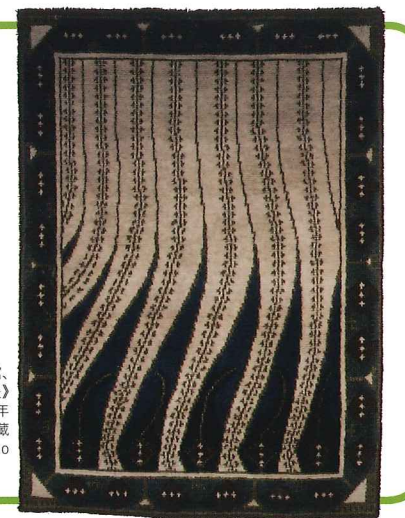
椅子
ワルター・トーム、カール・リンダール / 1903-1904年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
©Designmuseum
Photo:Chikako Harada



ポウル
エーリク O. W. アールストロム / 1906年
イッタラ
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
©Designmuseum
Photo:Chikako Harada



1900年パリ万国博覧会フィンランド館、
「アイリスの間」のためのルイユ織《炎》
アクセル・ガレン＝カレラ / 1899年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
©Designmuseum



第2章 フィンランド・デザインの“礎”

本章では、フィンランド・デザインを語る上で避ける事の出来ない、デザインの発展期としての“礎”となったデザイナーと企業ブランドを紹介します。**カイ・フランク**と陶器やガラス製品で有名な『ARABIA』(アラビア)、『**iittala**』(イッタラ)、**マイヤ・イソラ**とファッションをはじめ、バッグ・アクセサリ、室内装飾といった分野で独自のデザインを発信するライフスタイルブランド『**Marimekko**』(マリメッコ)。そして、世界的建築家で都市計画家でもある**アルヴァ・アアルト**と家具や照明などを製作する『**Artek**』(アルテック)。デザイナーが作り、デザイナーを支えてきた、フィンランドを代表する各企業ブランドとそれらの作品を展示します。

紹介作家

アルヴァ・アアルト Alvar Aalto(1898-1976)
カイ・フランク Kaj Franck(1911-1989)
マイヤ・イソラ Maija Isola(1927-2011)

生地《ウニッコ》
マイヤ・イソラ / 1964年
マリメッコ社
©Marimekko Corporation



スツール《スツール 60》
アルヴァ・アアルト / 1933年
アルテック ©Artek



椅子《41 アームチェア バイミオ》
アルヴァ・アアルト / 1931-1932年
アルテック ©Artek



テーブルウェア《Kiltaシリーズ》
カイ・フランク / 1953年
アラビア
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
©Designmuseum

第3章 フィンランド・デザインの“完成”

本章では、“礎”の次世代として、いわばフィンランド・デザインを“完成”させたデザイナーを紹介します。**ティモ・サルパネヴァ**のガラス作品、**タピオ・ウィルカラ**のガラスや陶器、**イルマリ・タピオヴァーラ**の家具、**ライヤ・ウオシッキネン**をはじめとするデザイナーの陶器など、これまでのフィンランド・デザイナーたちや企業が築いてきたデザイン・ブランドの基盤を見事なまでに昇華・発展させ、素材の良さをより引き出して具現化してきた彼らの優れた作品の数々を展示します。

紹介作家

イルマリ・タピオヴァーラ Ilmari Tapiovaara(1914-1999)
タピオ・ウィルカラ Tapio Wirkkala(1915-1985)
ティモ・サルパネヴァ Timo Sarpaneva(1926-2006)
ライヤ・ウオシッキネン Raija Uosikkinen(1923-2004)



椅子《ドムス チェア》
イルマリ・タピオヴァーラ / 1946年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
©Designmuseum
Photo:Chikako Harada



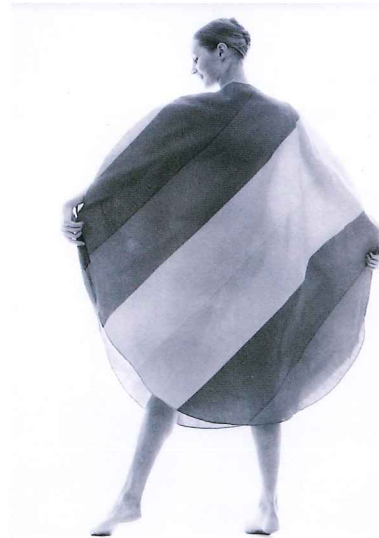
キャンドルホルダー《Festivo》
ティモ・サルパネヴァ / 1966年
イッタラ ©iittala



アートオブジェ
タピオ・ウィルカラ / 1955年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
©Designmuseum
Photo:Chikako Harada

第4章 フィンランド・デザインの“異才たち”

本章では、独自の道を歩んで実績を残してきたフィンランド・デザイナーの作品を紹介します。フィンランドの国民的キャラクター「ムーミン」の生みの親である**トーベ・ヤンソン**の書籍やスケッチ、今なお現役で活躍を続ける、服飾デザイナーの**ヴォッコ・エスコリン-ヌルメスニエミ**のドレスやテキスタイル・パターン、斬新で、時に愛らしい家具や照明をデザインする**エーロ・アールニオ**、身近な自然を題材としたポスターを作り続ける**エリック・ブルーン**。デザインすることを自身の生活に取り込み、楽しむことを人生の基本としたデザイナーの作品を展示します。



ドレス
ヴォッコ・エスコリン-ヌルメスニエミ / 1964年
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵 ©Designmuseo



椅子《Puppy》
エーロ・アールニオ / 2003年
©Eero Aarnio

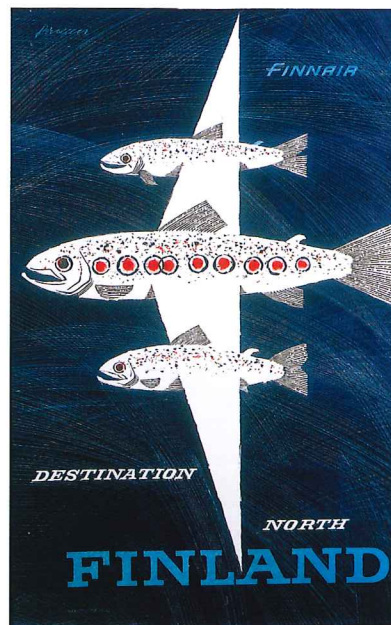
紹介作家

トーベ・ヤンソン Tove Jansson(1914-2001)

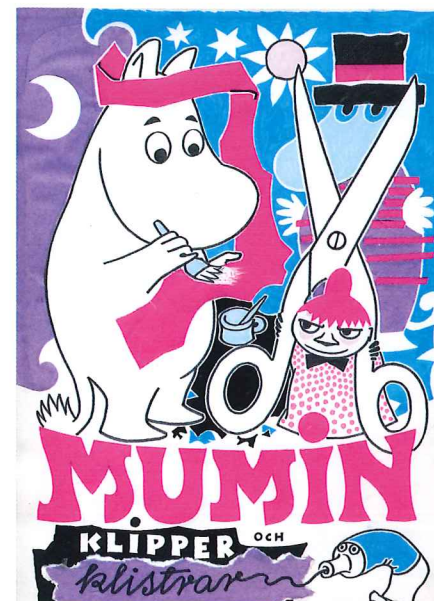
エリック・ブルーン Erik Bruun(1926-)

ヴォッコ・エスコリン-ヌルメスニエミ Vokko Eskolin-Nurmesniemi(1930-)

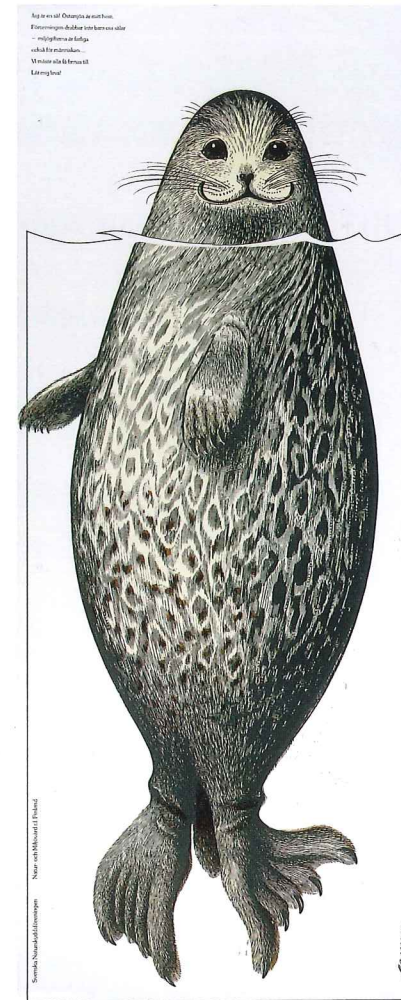
エーロ・アールニオ Eero Aarnio(1932-)



ポスター《Finnair》
エリック・ブルーン / 1965年
©Erik Bruun



原画 書籍表紙
トーベ・ヤンソン / 制作年不詳
ムーミン・キャラクターズ社蔵
©Moomin Characters™



ポスター《自然保護団体》
エリック・ブルーン / 1974年
©Erik Bruun



椅子《Ball Chair》
エーロ・アールニオ / 1963年
©Eero Aarnio

第5章 フィンランド・デザインの“飛躍”

本章では、戦後から現在まで、企業と関わりながら飛躍し続けるデザイナーの作品を紹介します。日本人としてフィンランドで活躍する**石本藤雄**の陶製レリーフやテキスタイル・パターン、愛くるしい鳥のガラスオブジェなどを制作する**オイバ・トイッカ**、シンプルながらも温かみを感じるガラスや陶器をデザインする**ヘイッキ・オルボラ**、トーベ・ヤンソンのオリジナル作画をベースにムーミンの世界を忠実に表現した「ムーミン マグカップ」をデザインする**トーベ・スロットテ**の作品を展示します。

紹介作家

石本藤雄 Fujiwo Ishimoto(1941-), オイバ・トイッカ Oiva Toikka(1931-),
ヘイッキ・オルボラ Heikki Orvola(1943-), トーベ・スロットテ Tove Slotte(1957-)



陶製レリーフ《flower》
石本藤雄 ©Fujiwo Ishimoto



バード
オイバ・トイッカ イッタラ
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵 ©Designmuseo Photo:Chikako Harada



ムーミン マグカップ 2016 Summerとその原画と資料
トーベ・スロットテ
©Fiskars ©ARABIA Photo:Chikako Harada

第6章 フィンランド・デザインの“いま”

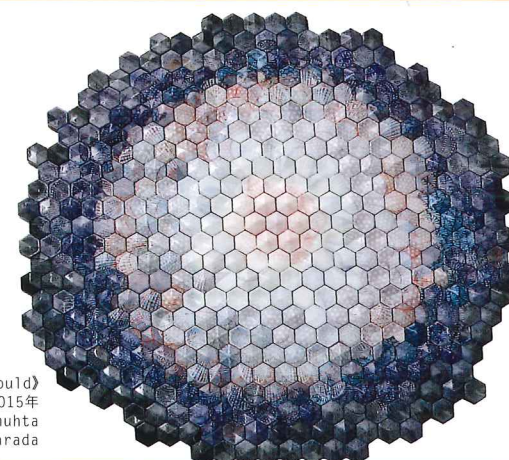
本章では、現在フィンランドで最も注目される二人のデザイナーの作品を紹介します。1998年にイタリア・ミラノで発表された「ブロック・ランプ」がニューヨーク近代美術館に収蔵されるなど、いまや世界的に活躍する**ハッリ・コスキネン**の家具や食器、テキスタイルの他、フィンランドで活躍するセラミックアーティストでもある**ヘイニ・リータフタ**の、花柄をあしらった食器や様々な色のパターンを活かした陶製レリーフなどを展示します。

紹介作家

ハッリ・コスキネン Harri Koskinen(1970-), ヘイニ・リータフタ Heini Riitahuhta(1975-)



プロトタイプ《フィンランディア ボトル》
ハッリ・コスキネン / 1998年
©Harri Koskinen
Photo:Chikako Harada



陶製レリーフ《Flower of could》
ヘイニ・リータフタ / 2015年
©Heini Riitahuhta
Photo:Chikako Harada



ダイニングチェア
ハッリ・コスキネン / 2015年
©Harri Koskinen
Photo:Chikako Harada

会 期 ・ 会 場

〈福岡展〉 2017年1月14日(土) ～ 3月20日(月・祝) 福岡市博物館

◆お問い合わせ先 092-845-5011

〈愛知展〉 2017年4月7日(金) ～ 5月28日(日) 愛知県美術館

◆お問い合わせ先 052-971-5511(代)

〈福井展〉 2017年7月22日(土) ～ 9月3日(日) 福井市美術館

◆お問い合わせ先 0776-33-2990

〈東京展〉 2017年9月9日(金) ～ 10月22日(日) 府中市美術館

◆お問い合わせ先 042-336-4856

〈宮城展〉 2017年10月28日(土) ～ 12月24日(日) 宮城県美術館

◆お問い合わせ先 022-221-2111

公 式 サ イ ト

<http://finnish-design2017.exhn.jp/>

展覧会情報に加え、フィンランド在住の森下圭子さん(ムーミン研究家として、また『かもめ食堂』をはじめとするコーディネートとしてもご活躍中で、本展にもご協力いただいております!)による、フィンランドのデザインやライフスタイルに関するコラムも連載、配信予定です。展覧会が始まる前に、“いまのフィンランド”についても是非覗いてみて下さい。

グ ッ ズ

会期中、展覧会オリジナルグッズはもちろんのこと、フィンランドの暮らしの中でのいまもなお愛され続けている、フィンランドのデザインブランドの商品も販売いたします。この機会に、フィンランドの心地よい空気を持ち帰ってみてはいかがでしょうか？

